



防災ゲームで学ぶ災害時の備え



かつての職場で防災担当だった経験から、災害に対する危機管理意識が高かったという大山真由美さん。防災士の資格を取り、「楽しく学べる防災・減災教育」を広めているわしん倶楽部で活動する知人の姿に刺激を受け、自身もメンバーに加わりました。現在は、地域に貢献したいという想いから東田中南自治会の防災担当も務めています。

わしん倶楽部が「子どもも大人も遊びながら楽しく防災を学ぶこと」を目的に活用しているのが、防災カードゲーム「クロスロード」です。クロスロードは阪神淡路大震災の経験から生まれた防災ゲームで、「分かれ道」という意味があります。ゲームの参加者は災害時に迷うこと、困ることといった簡単な設問にYESかNOかを選択し、緊急時の対応を判断します。参加者同士で意見を交わしたり、一緒に解決策を考えることで、それぞれの視点や価値観を共有するとともに、いざという時のために備えておくことの大切さを学ぶことができます。たがさぼのイベントでは「多種多様な考え方や気づきがあった」「判断基準が違う場面を取り入れることでいろいろと考えることができた」といった感想がありました。

これまで企業や学校、地域の集まりでゲームを実施してきた大山さんは「子どもたちと設問の内容を作ったり、地域の人たちと活用の方法を考えることで、防災意識を高めてほしい」と話します。そこには「防災のイメージを明るいものに変えながら、防災・減災の輪を広げていきたい」という想いがあります。

↑ 防災に関心のある人たちが集まって実施したたがさぼ主催のイベントで、参加者にクロスロードのルールを説明する大山さん。



↑ YESかNOか！意見がひとりだけのときもあります。それは貴重な意見とし金座布団が渡されます。少数意見も尊重する点数配分をしています。



クロスロードを体験した
たがさぼのイベント「防災人ミーティング」の
レポートはこちら



大切な「モノ」について考えるDAY

5月6日(月・祝)、文化センター、市立図書館、たがさぼの3館合同で、「いらなくなったものも誰かの宝物なるかもしれない」という想いのもと、大切な「モノ」について考えるイベントが開催されました。



遊ばなくなったおもちゃが誰かの宝物に

文化センターで行われた「かえっこバザール」は、2000年に福岡でスタートした取り組み。遊ばなくなったおもちゃをポイントに交換する仕組みを使って、子どもたちが自発的にさまざまな活動や体験をすることができます。この取り組みに共感した文化センターは2016年から年1回のペースで開催。「参加した子どもたちの輝く笑顔が見たい」という想いが込められています。今回は、運営の手伝いや簡単なゲームに参加することでポイントを獲得することができ、集めたポイントを使って、思い思いのおもちゃを手にしていました。

本から生まれるつながり

市立図書館で行われた「Book Swap」は、2020年に当時中学生だった女の子が始めた、寄付された本を無償で提供することで、読まなくなった本を社会に循環させる取り組みです。図書館では、寄贈の申し込みがあっても、受け入れ基準から外れた本は断ることもあり、「寄付というかたちで募ることで、読まなくなった本を役立てたい」という想いも含めて、必要としている人へつなぎたい。本を紹介した人とのつながりが感じられるイベントにしたい」という想いが込められています。本との新たな出会いを求め、幅広い年代の方が参加しました。

漂着物から生まれる物語

たがさぼでは、「たがさぼきっず広場」と題して、地域でさまざまな活動をしている団体のワークショップを開催しました。そのひとつが、船長小屋を主宰している喜多直人さんの漂着物から物語をソウゾウ(想像・創造)するワークショップ。人の手を離れ、海を巡って戻ってきたモノたち(漂着物)に思いをはせ、どんな物語があったとどり着いたのかを想像することで、自分の暮らしを見つめなおすこともねらいのひとつです。片方だけのサンダル、どこの国のものかわからない瓶などは、どこかの誰かが大切にしていたモノかもしれない。手に取って振ってみたら音が鳴った。その音も想像力を刺激してくれます。喜多さんは「私たちが使わなくなったものがゴミと呼ばれて厄介者になるのが悲しい。ゴミではなく誰かの生活のかけらや思い出のかけらなのです」と話してくれました。

3館を巡って楽しくポイントを集めながら、それぞれの場所で大切な「モノ」について考えることができるイベントになりました。さまざまな体験をすることで、何物にもかえられないそれぞれの宝物を集めることができたのかもしれない。



↑参加者に漂着物の説明をする喜多船長。

参加者の感想



自分が持ってきた本を
どんな人が持っていくのか
楽しみ!



おもちゃを並べる
お手伝いも楽しい!

漂着物の
カタチと汚れから想像して
絵を描きました。



「tag」とは

「tag」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ

ブログ

アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている